

問4 最終処分場が決まらないのは、なぜですか。

答4 理由は人類の誤解にあります。論点を間違えていると思います。最終処分場に関する技術はほとんど確立されており、それらの技術的課題ではなく、“風評”などにより、国民の合意形成ができてないからです。

—高レベル放射性廃棄物の最終処分場に関連する質問と回答—

常識問題

問4-1 原子力発電所は、本当に“トイレなきマンション”なのですか。

回答：原子力反対派は、「高レベル放射性廃棄物」の最終処分場がまだないので、「トイレなきマンション」の原発は稼働すべきではないと主張しています。この情緒的な表現は原発を導入した当初から今日に至る長きに亘って使われてきました。しかし、この主張は決して実態を反映したものではありません。仮に、マンションにトイレが無ければすぐに人は住めなくなりますが、原発の運転で発生した使用済燃料はきちんと管理された保管が行われています。実際に世界のどの国でもそのようにしています。

情緒電車

問4-2 最終処分場に反対しませんが、この地域への誘致は困ります。

回答：その気持ちは分かります。二つの理由が考えられます。その一は、“トイレなきマンション”という情緒的な言葉が足かせになって、地層処分の正しい理解が妨げられています。その二は、日本では候補地の決定に当たり、地域住民と国・自治体との合意形成の過程が双方向ではなく一方的な行為だったからです。このために未だ信頼関係が構築されていません。また、住民側にも利権が絡み複雑な様相を呈する上、反対のための反対派が合意形成を必死に妨げている行為が、冷静な議論に基づいた解決を妨げてきました。

志の電車

問4-3 最終処分場は今後どう決めるのですか。

回答：国が事業の実施主体である原子力発電環境整備機構（NUMO）に加え、国も高レベル放射性廃棄物の最終処分場の候補地探しに参画します。

まず、①“火山や活断層が近くにないなどの基準を満たす「科学的有望地」を提示することになりました。そして、②国が、有望地内に存在する複数の自治体に処分場建設のための調査協力を打診する”という基本方針が決まりました。

私たちは、40年以上にわたり原発による電気を使って生活しその恩恵を享受してきました。この世代の私たちは原発で発生した廃棄物の処分の解決の道筋をつける責任があるのではないのでしょうか。

また、国民の合意をいかに得るか、合意形成の決定プロセスが重要です。その方法論に関して海外の事例を参考にすることも重要です。今後の進展に関心を抱いて注目していきましょう。

→豆知識 1～2 (p.90) 【出典】 p.94